

## 時

島から広島に帰ると、街には、東郷元師の薨去を知らせる号外が出ている。沈黙の英雄、軍神、聖提督等と、一世の尊敬を集められた元師も、八十八歳と言う御高齢で、如何に国民が惜しんでも如何ともすることは出来ない。

時・・街には、元気な人、若い人が、右往左往、力一ばい動いている。しかしこの人たちも皆、時の前には何の力も持たないのだ。善人も、悪人も、裁判長も被告も、無病の人も、病弱な人も、治す博士も、治される病人も、誰も彼も、あはれ、時の前にはことごとくみな平等である。何も彼も時の中にのみ込まれて消えてゆく。

時は、全ての解決者である。

如何に大雨も、百日とは降り続かない。如何に大風も十日とは吹き続かない。全ては時と共に起り、時と共に移り、時と共に解決されてゆく。

時は一切の審判者である。

時は一切の装われたる者の仮面をぬがせ、埋れたる者の光を輝かせ、亡ぶべきものを亡ぼし、興るべきものを興らしめる。

あはれ、昨日の大官も、今日は裁きの庭に罪をあばかれ、今日の権勢も、明日は転落の淵に沈む。

一悪を行ふも天は必ずしも罰せず、二悪三悪、勢いに乗じて、富を得、地位を得て世にはびこる。やがて、一悪の曝露する時、衆悪一時に花を咲いて、白日のもとに曝されて、世に葬られる。

一善、世にあらわれず、二善、三善、黙々の努力も顧られない。然れども、天道決して無情に非ず、やがて内に徳の成就されるにしたがって、一善光り、二善輝き、ついに世の光となる。徳の光は何をもつても覆うべからず。努力による充実は、必ず世の認むるところとなる。であるから、世の批評に心を奪われることなく、ただ努力せよ。精進せよ。

世に才子がある。極めて有用の材と見えて重く用いられる。世に極めて質実な歩み方をする青年がある。誰にもあまり重じられないが如くである。五年十年の後、その才子はどこに、その青年やどこに。

周囲の全ての人によつて、非難されていて、齒を喰いしばつて忍ぶがいい。そしてただ黙々の努力精進を継続せよ。今日の絶讃の嵐が、十年の後まで持ち続けられない。今日の疑いが三年と続きはしない。今日の讚美が、来年の不真面目の埋め合せにはならない。

世に許すべからざる罪悪を行い、社会に頭の出されないと悩む者よ。いたずらに煩悶することなく、大乘の大輪廻をとげ、仏の大慈悲に更生して、黙つて努力精進の大道に出発せよ。罪のつぐないは自殺によつて消えず。

「先生は、人を信じすぎるからいけない。」この忠告を聞くことは久しい。しかし、私は今も、人の悪所欠点はなるべく見ず、長所美点のみ見て、正面から人を信じてかか

る。その言葉をももちろんである。裏切る人が悪いのか、信ずる私が悪いのか。裏切られた者が不幸か、裏切った者が幸か。時のみが全てを解決する。

久遠から永遠を流るゝ時を思う時、栄枯盛衰、治乱興亡、毀誉褒貶の一切を超えて、永遠に現在に君臨し、招喚する者の心に帰る。逆境悲しむに足らず、順境たのむに足らず、毀<sup>こ</sup>られて悲しむに足らず、褒<sup>ほ</sup>められて有頂天になるに足らず、久遠の真実なるものの大心海に全我を投入する時、はじめ、世の一切を超えて安住の一境を体解する。南無阿弥陀仏。

時は、温かき慈母であるか、冷たき審判者であるか。

不平も、不満も、呪いも、怒りも、時は一切の訴えをとり上げない。後悔も役に立たず。祈祷にもこたえず、人間のこざかしいはからいを見無視して、人間にとつて不可抗力であるかの如く、一切を冷たくも裁いてゆく。時は果して冷き審判者であるか。

そう思つた日もあつた。しかし、時こそは温かき慈母の懐よ。あまりにも寛大にして、報ゆることの厚き、あまりにも温くして、培い育むことの深き。我、時の流れの懐に帰る時、複雑に見えた人生も単純になり、暗く見えた人生も明るくなり、無意味に見えた苦悩にも意義が見出せ、恐ろしかったことも恐るゝに足らぬことを知らしめ、我を人生本然の相につれ帰つて、再び湧き出づる内部生命の願力に更生せしめる。

ああ、若人よ、何故にその小事に翻弄せられて、時の意味を忘れるのか。

何故にその小事につまづいて、汝自身を失い、醜い感情に支配せられて、足元を忘れ精進を棄てるのか。

時の流れが一切の声を無視するが如く、何故に黙々として、一道を歩みきらざる。徒らなる弁解は、自己内面の無信念と、無力の暴露のみ。汝の終始一貫の歩みのみ、世の常識的雑音を封じる。

時は念々刻々に移る。諸行無常を観ずる時、人ははじめて襟を正す。一日の日を尊ぶべし。一時間の時を尊ぶべし。時を粗末することは、即ち、汝自身を粗末にすることである。人を尊ぶとは、他人の時間を尊ぶこと。

我一人のために、如何に多くの人の時間を費さしめることよ。

時の尊さを知らぬ者に、人生にたいする感謝あることなく、時の尊さを知らぬ者に、精進努力あることなし。

無益の雑談の半日は短く、有益なる勉強の二時間は長い。

汝の今日までの時は、その何割が真に有効に真剣に使われたか。

危篤に陥つた時に使はれるその注意と、鬨病の志と、生きる真剣さと、費用と、憩ひと、恐怖との十分の一でもが、かつての日の、ふしだら、不節制、不身持ちの時に使われていたら……後悔は遅きに過ぎたり。聖賢は必ずその体を養ふ。

醜状を天下に暴露して、無限の苦痛に胸を刺さるゝ時の心理の十分の一でもが、彼がかつて世に栄えた時予想せられていたなら……後悔は遅きに過ぎたり。

老いて流す後悔の涙が、父母の生きてまします若き日の、苦き忠言の前に、一滴でも流されていたら……人生再び帰らず。

時は、不斷に汝に警告す。これを無視する時、大火やがての日に汝を焼く。

如来は無量寿であり、無量光である。

智慧光汝に訪れて、汝を照破し、大悪に至らざるに、大悪を信知せしめ、大苦に至らざるに、大苦を知らしめ、無量寿来つて汝の命となり、汝をその慈悲の懷に撰取して、安住を得しむる。無常の巷にありつゝ常住を生き、大愚大悪に落在して、如来の絶対善を廻向せられる。

生きて嬉しき時なる哉。光明に充つる時なる哉。